



プールができたころ

副校長 柴田 英文



開校のころのことを当時の子どもたちの作文から知る機会がありました。

「十三小に初めて行った日、ぼくたちは教室に入って、いろいろと先生の話聞いた後、さよならをした。そして、昇降口を出て、何の気なしに校庭を見た。そしたら校庭にはなにひとつなかった。」
昭和 43 年 6 月 1 日。1 年生から 5 年生の 4 百数十人が、六小に

別れを告げて、十三小の門をくぐった時に感じた偽らざる印象だったのでしょ。

2 週間後の 6 月 15 日。「なにひとつなかった」校庭に、当時の教職員と児童は、開校の記念として泰山木を正門の左右に植樹し「学校の木」と定めています。

開校当時の校舎はうすい緑色で、中校舎はそのままで、南校舎は今の玄関から職員室までしかなく、北校舎は階段の東側の建物と各階に教室が一つだけでした。人口が急激に増えていた当時の小平市の教育事情は、教室の確保が最大のテーマだったようです。プールや体育館は勿論、体育倉庫はおろか、鉄棒一つなかったのもそのような理由があるのでしょうか。

当時の小平六小は今では考えられない規模の大きさでした。昭和 43 年 5 月 1 日の児童数は 1435 人、学級数は 38 学級だったとの記録が残っています。

「なにひとつなかった」校庭に次は鉄棒ができ、少しずつ遊具が作られていきました。更に、昭和 45 年 7 月にプールが完成しています。プールができるまでは、年に 2～3 回ほど六小のプールを借りていたようです。自校のプールに子どもたちの喜びは大きかったことでしょう。

「十三小にプールができ、六年生でプール開きをした。たった三分間泳いだけだったが、…中略…とても楽しかった。」

この年のプール開きは 7 月 20 日。多分、終業式の日だったはず。その日にももらった通知表よりも、3 分間入っただけの水の感触のほうが忘れられないものだったのでしょうか。

始めから歩けた人がいないように、水泳も始めから泳げる子はいません。誰もができないところからのスタートです。5 メートルしか泳げなかった子が、息継ぎをマスターして急に泳力を伸ばすことはめずらしくありません。何かのきっかけを得ると、自らを大きく変えて次に進んでいく子どもたち。ぜひ子どもたちに挑戦する機会をあげてください。

いよいよ明日から 42 日間の夏休みです。子どもたちも楽しみにしていると思います。夏休みは、普段はできないことを、じっくりと取り組むことができるチャンスです。

小学生の夏は体が大きくなります。1 学期に履いていた上履きが 2 学期は履けなくなるものです。夏休み中に家族との予定や宿題があったとしても、自由に過ごせる時間は学期中と比べたら多いはず。この自由をぜひ満喫しながら体とともに心も大きくなることを願っています。

今学期も、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。どうぞ交通事故等には十分ご注意ください、有意義な夏休みをお過ごしください。

○8月の芝刈りの予定 ※午後3時30分より
2日(水)、4日(金)、7日(月)、9日(水)、11日(金)
14日(月)、16日(水)、18日(金)、21日(月)、23日(水)、25日(金)
28日(月)、30日(水)